

2021年度 教員活動報告書

学部学科名／部局名	職名	氏名
大学院マネジメント研究科	教授	武田 寛
専門分野		
ファイナンス、国際経済、経済経営理論		

1 教育領域			
(1) 教育担当実績 ※ 90分授業 1限 9:00～、2限 10:40～、3限 13:00～、4限 14:40～、5限 16:20～、6限 18:00～、7限 19:40～			
学部 1学期・科目名	曜日・時限	学部 2学期・科目名	曜日・時限
卒業研究 A	水・2	卒業研究 B ファイナンス論	水・2 木・4
大学院 1学期・科目名	曜日・時限	大学院 2学期・科目名	曜日・時限
フィナンシャル・インベストメント	火・6 火・7	ファイナンス	木・6 木・7
プロジェクト研究 I	土・6	プロジェクト研究 II グループ・プロジェクト	土・6 土・2
修士論文指導		博士論文指導	
学生数		学生数	
修士論文指導(主査)		1	
(2) FD 活動 <研修参加、授業改善への取り組み等> (200字以内)			
<p>・2021年6月9日の研究不正防止部局研修、8月19日の全学FD研修、11月17日の教職員向け安全衛生講習会、2022年1月14日の危機管理研修、2月11日の管理職FD部局研修「学生との接し方、それでいいの?」、3月7日のダイバーシティ研修に参加した。</p> <p>・フィナンシャル・インベストメントの教材は、独自に作成した『フィナンシャル・インベストメント第5版』を用い、また補助教材として、独自のプリントを作成して毎回配布した。</p> <p>・ファイナンスでは、教科書のポイント、企業事例、時事問題等をまとめた、独自の教材を作成して、ポイントが容易に理解できるようにした。</p>			
(3) その他 <上記以外の特筆すべき教育活動、学習相談への対応、正規の授業時間外の教育活動等> (200字以内)			
<p>・(特筆すべき教育活動)経済学部ゼミ生の就職活動に資するように、新聞の購読を勧め、日本経済新聞や朝日新聞の記事について発表とディスカッションを行った。</p> <p>・(学習相談への対応)ファイナンス論では、授業外での学生の質問に対して、丁寧に対応した。</p> <p>・(正規の授業時間外の教育活動)グループ・プロジェクトやプロジェクト研究におけるデータ収集のため、データベースの利用方法について説明した。プロジェクト研究は、夏季休暇中など正規の授業時間以外の学生指導を実施した。</p>			

2 研究領域	
(1) 公表された研究成果(過去3年間)	
【2019年度】 学術書、その他の著書、学術論文、報告書、学会発表等	発表年・月
・(論文)「経営と会計とファイナンス」北九州市立大学マネジメント論集第13号, pp. 1-18.	2020年3月
・(論文)「Connecting Indigenous, Eastern and Western Perspectives on Management」北九州市立大学マネジメント論集第13号, pp. 69-71.	2020年3月
【2020年度】 学術書、その他の著書、学術論文、報告書、学会発表等	発表年・月
・(論文)「企業のライフサイクルと経営」北九州市立大学マネジメント論集第14号, pp. 1-17.	2021年3月
・(論文)「経営思想と投資行動」北九州市立大学マネジメント論集第14号, pp. 45-51.	2021年3月
【2021年度】 学術書、その他の著書、学術論文、報告書、学会発表等	発表年・月
・(論文)「企業経営の目的と統合報告書」北九州市立大学マネジメント論集第15号, pp. 17-32.	2022年3月
(2) 外部資金(過去3年間)	
【2019年度】 科研費等外部資金名	
採択	科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表者)
【2020年度】 科研費等外部資金名	
継続	科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表者)
【2021年度】 科研費等外部資金名	
継続	科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表者)
申請	科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表者)
(3) 当該年度の学会活動 <座長、討論者、パネリスト、委員、受賞、特許他実用新案等>	
(4) その他 <上記以外の当該年度における特筆すべき研究活動> (200字以内)	
<p>・ファイナンス・会計分野で定評のある学術誌 Accounting, Auditing & Accountability Journal (略称: AAAJ、スリーエー・ジャーナル) に掲載された論文「Management, accounting and philosophy: the development of management accounting at Kyocera」</p>	

1959-2013」は過去3年間の有料のダウンロード数688回(累積3,377回、2022年3月22日現在)と非常に注目されており、イギリス、フランス、オーストラリア、デンマーク、ポーランド、ブラジル、ロシア、日本の研究者に引用されている。

3 管理運営領域	
(1) 全学業務 < 役職等、委員会等 >	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会委員 ・学生部委員会委員 	
(2) 部局内業務 < ワーキング・グループ、委員等 >	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科委員会委員 ・常任委員会委員 ・図書委員会委員長 ・学術委員会委員長ほか 	
(3) 広報活動業務 < 大学説明会、高校訪問、出張講義、高大連携、オープンキャンパス等 >	実施年月日
(4) その他 < 上記以外の特筆すべき管理運営業務、部活動やサークルの部長、顧問等 >	

4 社会貢献領域	
(1) 主体的活動 < 地域課題解決のための活動 (事業やプロジェクト等) >	
(2) 支援活動 < 外部からの依頼により行った活動 (学外委員会や審議会等の委員等) >	
(3) 講演活動 < 講演、公開講座、各種研修講師、シンポジウム、メディアへの出演等 >	実施年月日
(4) その他 < 上記以外の特筆すべき社会貢献活動 >	
<ul style="list-style-type: none"> ・共著論文執筆や先方からの依頼による支援活動等を通じて、カーディフ大学大学院カーディフビジネススクール教授との交流継続。 ・研究書寄稿等を通じて、アーカンソー大学大学院ビジネススクール(アメリカ)元教授との交流継続。 	